

2021（令和3）年度
学校関係者評価 報告書

学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校

2021（令和3）年度 学校関係者評価報告書

学校法人東杜学園 国際マルチビジネス専門学校では、教育理念、教育目的等をはじめとする学校教育及び学校運営について現状を点検し、その改善を図るため自己点検・自己評価を実施し「2021（令和3）年度自己点検評価報告書」を取りまとめ、当校ホームページに公開致しました。

また、学校関係者評価委員会を設置し、本校に関連する業界・企業の皆様より当校の学校教育及び運営に対しご意見やご指導を頂きました。

頂戴致しましたご意見等につきましては「2021（令和3）年度学校関係者評価報告書」としてご報告させていただきます。

委員の皆様から頂戴いたしました貴重なご意見やご指摘を今後の学校運営に反映させ、教職員一同社会のニーズに応えられる学生指導と教育の質のさらなる向上を目指して参る所存です。

関係者の皆様には、今後共なお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2022（令和4）年9月

学校法人 東杜学園

国際マルチビジネス専門学校

校長 野口 和江

1 学校関係者評価委員会

（1） 学校関係者評価委員

高木 友子 氏 公益財団法人日本ケアフィット共育機構 事務局長

伊藤 彰徳 氏 名鉄観光サービス株式会社仙台支店 営業課長

齋藤 康紀 氏 仙台ターミナルビル株式会社 ホテルメトロポリタン仙台
ホテル事業本部 総支配人室 室長

小笠原 均 氏 有限会社花嫁の千登勢 取締役副社長

板垣 佑子 氏 Across THE Universe 店長

加藤 ゆかり 氏 株式会社留学ジャーナル 代表取締役副社長

（2） 対象期間

2021（令和3）年4月1日～2022（令和4）年3月31日

（3） 評価項目、評価スケール

4（適切）、3（ほぼ適切）、2（やや不適切）、1（不適切）の4段階評価にて実施した「2021（令和3）年度自己評価報告書」を基本に、評価項目別に委員会から頂戴した評価、意見並びに提案を以下に報告致します。

(4) 評価及び意見

評価項目 1：教育理念・目標

・今まで培ってきた学園の「伝統と信頼」は非常に強固なものと評価する。本校の面倒見の良さや教員の熱意等は他校には見られない強み=愛情と表現できると思う。学園のこの姿勢が変わりゆく未来を生き抜いていく力を伝え、授けることに繋がっている。可視化は非常に難しいが、学園のこの理念と安心感をより伝えることができるよう尽力いただきたい。

評価項目 2：学校運営

・学園が使用する情報システムについてご質問を頂いた。コロナ禍を経て、要求される情報管理及びシステムが複雑化していることもあり、今後の時代のニーズに対応できるよう日々各職員のスキルアップが必要と思われると回答した。

評価項目 3：教育活動

・AI 化が進み、自ら考え行動できる自発的な人間の育成が今まで以上に重要となる。昨年同様、可視化・数値化はできないが「コミュニケーション能力」を持ち合わせることでより様々な状況に立ち向かえる為、継続して更なる強化を願いたいとの意見を頂戴した。
・教員研修についてご質問があり、より計画的な受講が求められると回答した。

評価項目 4：学修成果

・各団体や協会、企業との強固な連携により、適切な指導を受けられていると感じる。
・学生主体で進める企業化教育は非常に評価できる取り組みと思う。

評価項目 5：学生支援

・全般的に支援体制は整備されている。

評価項目 6：教育環境

・定期的な見直しや改善を行っており、適切である。

評価項目 7：学生受け入れ募集

・効果的な学生募集の実現に向けた大規模な改革を立案、実施の内容を学園側より説明。
・コロナ禍においては、接客業は就業が難しい職業と捉えた家庭も一定数あったかと想像するが、アフターコロナの現在、各業界はコロナ前以上に求人増又は新規事業に着手といった動きが顕著となっている。SNS 等を有効に使い、業界の有望性を周知していくべき。

評価項目 8：財務

評価項目 9：法令等の遵守

・財務状況、会計監査、法令の遵守については適正に行われている。

評価項目 10 : 社会貢献・地域貢献

評価項目 11 : 国際交流

・特に委員会からの意見、質問はなかった。

(5) 課題

- ・「伝統と信頼」の再認識
- ・「専門性」+「コミュニケーション能力」の更なる指導及び強化
- ・各業界新規分野の知識や技術を意識した計画的な研修受講、良質な人材の開拓

以上の内容を学内で検討し、改善を目指す。

以 上